

## 医療入門

|              |  |        |            |
|--------------|--|--------|------------|
| 責任者・コーディネーター | 出羽 厚二 教科課程部会長                                |        |            |
| 担当講座・学科(分野)  | 医学教育学分野、地域医療学分野                              |        |            |
| 担当教員         | 佐藤 洋一 医学部長、相澤 純 特任講師、遠藤 秀彦 非常勤講師、佐藤 元美 非常勤講師 |        |            |
| 対象学年         | 1  | 区分・時間数 | 講義 9.0 時間  |
| 期間           | 通期   |        | 実習 78.0 時間 |

### ・学習方針（講義概要等）

6年間にわたる医学教育の early clinical exposure の第一段階として位置づけられる。臨床医学および医療の現場の一端にふれ、将来すぐれた医師になることを目指して努力するモチベーションを与える。

### ・教育成果（アウトカム）

early clinical exposure の第一段階として、医療・医療行政・看護・介護の現場の一端にふれることで、医療のプロフェッショナリズムを早期に学習し、医学生としての自覚を高めるとともに、医学専門教育を受ける厳しさを身につけることを目的とする。

（ディプロマ・ポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8）

### ・到達目標（SBO）

・医療・看護の現場を体験し、医療における医師・看護師の役割、チーム連携、責任体制について説明できる。

・介護の現場を体験し、保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。

・患者・介護施設入所者とのコミュニケーションを通じて、良好な人間関係を築くことができる。

・介護施設入所者、高齢者に対する医療、社会保障の問題を考え、問題点を抽出・整理できる。

・地域医療の現状の把握と問題点を抽出し、解決法を考察することにより、地域医療の実態を把握し、見識を深めその重要性和本質を理解する。

・ 講義日程

(矢) 西 101 1-A 講義室

【講義】

| 月日   | 曜日 | 時限 | 講座(学科)  | 担当教員        | 講義内容   |
|------|----|----|---------|-------------|--|
| 4/14 | 金  | 5  | 医学部     | 佐藤 洋一 医学部長  | 医学・医療の現況と展望  |
| 5/12 | 金  | 1  | 医学部     | 佐藤 洋一 医学部長  | 医療プロフェッショナリズム講義  |
| 5/31 | 水  | 3  | 医学部     | 佐藤 元美 非常勤講師 | 【特別講演】地域医療について 1   |
| 5/31 | 水  | 4  | 医学部     | 遠藤 秀彦 非常勤講師 | 【特別講演】地域医療について 2   |
| 6/14 | 水  | 3  | 医学教育学分野 | 相澤 純 特任講師   | グループ 13~24<br>医療学入門 BLS 実習<br>〈災害時地域医療支援教育センター〉<br>(グループ 1~12 細胞生物学 I<br>医歯薬総合研究所見学) |
| 6/14 | 水  | 4  | 医学教育学分野 | 相澤 純 特任講師   | グループ 13~24<br>医療学入門 BLS 実習<br>〈災害時地域医療支援教育センター〉<br>(グループ 1~12 細胞生物学 I<br>医歯薬総合研究所見学) |
| 6/21 | 水  | 3  | 医学教育学分野 | 相澤 純 特任講師   | グループ 1~12<br>医療学入門 BLS 実習<br>〈災害時地域医療支援教育センター〉<br>(グループ 13~24 細胞生物学 I<br>医歯薬総合研究所見学) |
| 6/21 | 水  | 4  | 医学教育学分野 | 相澤 純 特任講師   | グループ 1~12<br>医療学入門 BLS 実習<br>〈災害時地域医療支援教育センター〉<br>(グループ 13~24 細胞生物学 I<br>医歯薬総合研究所見学) |

【実習】

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 講義内容 |
|----|----|----|--------|------|------|
|----|----|----|--------|------|------|

|                    |             |     |  |                   |             |
|--------------------|-------------|-----|--|-------------------|-------------|
| 7/24<br>・<br>7/25  | 月<br>・<br>火 | 1~4 |  | 県内外の協力機関の指導者      | 医療体験実習      |
| 10/2<br>～<br>10/13 | 月<br>～<br>金 | 1~4 |  | 県内外の協力機関の指導者      | 看護・介護体験実習   |
| 11/29              | 水           | 1~4 |  | 県内外の協力機関の指導者      | 地域医療見学研修訪問日 |
| 12/20              | 水           | 1~4 |  | 出羽 厚二 教科課程部<br>会長 | 地域医療見学研修発表会 |

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

|   | 書籍名                     | 著者名  | 発行所  | 発行年  |
|---|-------------------------|------|------|------|
| 推 | 全人的医療入門－医療に関わるすべての人のために | 中井吉英 | 中山書店 | 2013 |

・成績評価方法

|   |
|---|
| <p>・講義レポート 20%</p> <p>・医療体験実習 20%</p> <p>・看護・介護体験実習 40%</p> <p>・地域医療見学研修 20%</p> <p>◎講義レポート<br/>下記の講義終了後に、講義で学んだ事等を 800 字のレポートをまとめて webclass で提出する。<br/>提出期限については、講義終了後 2 週間以内とする（実際の提出期限は掲示する）。</p> <p>①4/14 医学部長      ②5/12 医療プロ      ③5/31 藤沢病院長<br/>④5/31 中部病院長    ⑤6/14 または 6/21 医療学入門</p> <p>◎医療体験実習・地域医療見学研修の評価内容<br/>①学習・発表会・ポートフォリオの提出・内容<br/>②感想文提出・内容</p> <p>◎看護・介護体験実習の評価内容<br/>態度評価点<br/>介護施設および看護部から提出された評価票の内容</p> |
|---|

※介護実習については、施設訪問教員による評価も含む。

◎その他、全人的医療基礎講義の聴講態度とレポート提出により評価が加味される。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分            | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|-----------------|----------|----|------|
| 登録済の機器・器具はありません |          |    |      |

## 平成 29 年度 第 1 学年 医療体験実習 実施要項

### 1. 責任者

地域医療学分野 伊藤 智範 教授

### 2. 教育成果（アウトカム）

本研修は early clinical exposure として位置づけられている。  
地域医療機関で働く医師の活動を学ぶことで、医師になる者としての自覚を高めると共に医師の果たすべき役割を習得することができる。

### 3. 行動目標（SB0s—Specific Behavioral Objectives）

- (1) 医療チームにおいて、医師の果たしている役割を述べることができる。
- (2) 医療チームがどのようなメンバーで行われているか概説できる。
- (3) 病院スタッフ（指導医、看護師、薬剤師等）とのコミュニケーションをとることができる。
- (4) 患者さんや家族とのコミュニケーションをとることができる。
- (5) 地域医療機関で医師不足や看護師不足にどのような対策を取っているかを述べる  
ことができる。

### 4. 研修日程及び研修場所

- (1) ガイダンス 平成 29 年 5 月 31 日（水）
- (2) 研修日程 平成 29 年 7 月 24 日（月）、7 月 25 日（火）（2 日間）  
※寮から通う事のできない病院へは実習前日から 2 泊 3 日の対応とする。
- (3) 研修場所 県内外の医療機関

### 5. 研修にあたっての一般的注意事項

- (1) 医学生として言語、態度、服装に注意を払うこと。
- (2) 自己の所在を常に明確にし、遅刻、欠席の場合は必ず研修指導医と連絡をとること。
- (3) 研修に際しては、不都合なことの起こらぬよう十分に注意すること。何か不都合な事あるいは不適當なことが起こった場合には、直ちに指導者に報告・相談すること。

### 6. 評価について

実習態度、提出物の状況等を考慮し、医療入門の成績の 20%とする。

## 平成 29 年度 第 1 学年 看護・介護体験実習 実施要項

### 1. 責任者

医学部教科課程部会長 出羽 厚二 教授 (法医学分野)

### 2. 教育成果 (アウトカム)

本実習は、early clinical exposure の第一段階として位置づけられるもので、都市部・農漁村部を問わず、看護・介護の実態を体験することで、地域コミュニティーに根ざした医療を担うプロフェッショナルになることができる。

### 3. 行動目標 (SBOs—Specific Behavioral Objectives)

#### 【介護体験実習】

- (1) 介護とは何か、概説できる。
- (2) 介護のチームの一員として、働くことができる。
- (3) 介護において気をつけるべき事を列挙し、実際におこなうことができる。
- (4) 介護保険制度で医師がなすべき仕事を列挙できる。
- (5) 超高齢社会における問題点、それに対して現在行われている施策を述べる事が出来る。

#### 【看護体験実習】

- (1) 患者や入所者の不安や苦しみを理解することができる。
- (2) 病院の組織、機能を理解し列挙することができる
- (3) 医師、看護師による医療・看護を理解し、体験することができる。
- (4) 医師、看護師、コメディカルによるチーム医療の現場を体験することができる。
- (5) 入所者、高齢者に対する医療、社会保障の問題点と、それに対して現在行われている施策を述べる事が出来る。

### 4. 実習内容と場所

1 学年を 2 グループに分け、看護と介護の実習を 1 週ずつそれぞれ交互に行う。

I. 病院における看護体験実習

II. 介護体験実習受入応諾の各種施設における介護体験実習

### 5. 実習日程

#### ◎看護体験実習

10 月 2 日 (月) ~10 月 6 日 (金) グループ 1

10 月 10 日 (火) ~10 月 13 日 (金) グループ 2

#### ◎介護体験実習

10 月 2 日 (月) ~10 月 6 日 (金) グループ 2

10 月 10 日 (火) ~10 月 13 日 (金) グループ 1

### 6. 評価

実習態度、提出物の状況等を考慮し、医療入門の成績の 40%とする。

## 平成 29 年度 第 1 学年 地域医療見学研修 実施要項

### 1. 責任者

医学部教科課程部会長 出羽 厚二 教授（法医学分野）

### 2. 教育成果（アウトカム）

地域医療の現状の把握と問題点を抽出し、解決法を考察することにより、地域医療の実態を把握し、見識を深めるとともに、その重要性和本質を理解する。

### 3. 行動目標（SBOs—Specific Behavioral Objectives）

- (1) 地域医療の問題点を抽出し、解決策を考えることができる。
- (2) 必要な情報を図書館やインターネットを利用して収集できる。
- (3) グループ内で積極的に作業・議論に参加できる。
- (4) 収集した情報をデータでまとめ、的確に発表することができる。
- (5) 協調性を持ってチームとして一緒に行動できる。

### 4. 研修日程

- (1) ガイダンス 平成 29 年 10 月 20 日（金）
- (2) 研修日程 平成 29 年 11 月 29 日（水）
- (3) 研修場所 医療過疎地を含む県内の医療機関、行政機関等
- (4) 発表会 平成 29 年 12 月 20 日（水）

### 5. 研修にあたっての一般的注意事項

- (1) 医学生として言語、態度、服装に注意を払うこと。
- (2) 自己の所在を常に明確にし、遅刻、欠席の場合は必ず連絡をとること。
- (3) 研修に際しては、不都合なことの起こらぬよう十分に注意すること。  
もしも何か不都合な事あるいは不適當なことが起こった場合には、  
直ちに矢巾キャンパス教務課に報告・相談すること。

### 6. 評価方法

研修態度や発表会の発表内容・態度、提出物の状況等を考慮し、医療入門の成績の 20 %とする。